

インド

感染拡大の沈静化を受けて景気は持ち直し

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

主任研究員 熊谷 章太郎

E-mail: kumagai.shotaro@jri.co.jp

■7月以降、景気は持ち直し

インド経済は新型コロナの感染爆発を受けて今年半ばにかけて一時的に悪化したが、その後は感染拡大の沈静化を受けて持ち直している。

2021年4~6月期の実質GDPは、消費と投資の増加を主因に前年同期比+20.3%と前期(同+1.6%)から大幅に加速した(右上図)。ただし、①感染抑制に向けた活動規制の厳格化を受けて商業地への人出が5~6月にかけて減少したこと、②同時期に工業用酸素を医療用酸素に代替したことを受けて製造業の生産活動が停滞したこと等を踏まえると、4~6月期の加速は昨年の著しい落ち込みの反動によるものであり、実態はむしろ悪化したと判断される。

その後、市中感染の沈静化に伴い活動制限が段階的に緩和された7月以降は景気は持ち直しが続いている。8月のPMI(購買担当者指数)は製造業・サービスともに景気判断の分かれ目となる50を上回り、代表的な株価指数であるSENSEX指数も景気回復への期待や米国をはじめとする各国の株高も追い風に過去最高値を更新した(右下図)。

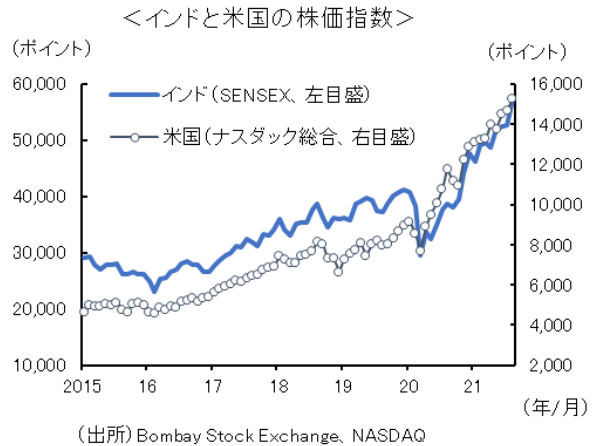
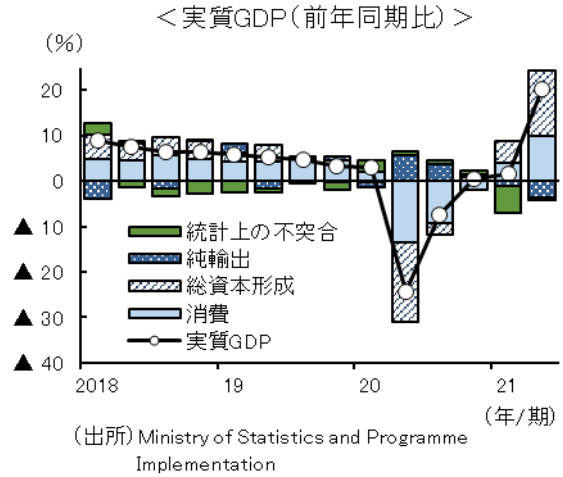
■感染再拡大リスクをどう見るか

景気を左右する感染動向の先行きを巡る専門家の見方は大きく二分されている。

NIDM(国立災害管理研究所)は8月、10月にかけて再び感染が拡大し、ピーク時の日次の新規感染者数が20~50万人に達する可能性を指摘し、警戒感を示した。

一方、ICMR(インド医学研究評議会)は、ワクチン接種ペースの加速等を理由に、インドが本年春先のような感染爆発に見舞われるリスクは低いとみている。日次のワクチン接種回数は4~5月の約200万回から足元にかけて約700万回に増加しており、累計接種回数は9月に7億回を超えた。このペースでワクチン接種が進めば、累計接種回数は10~11月に18歳以上の過半数が2回のワクチン接種を完了する目安となる10億回に達する見込みである。また、ICMRは、公式統計を大幅に上回る人々がすでに新型コロナに感染しており、その結果ワクチン未接種の人々の大半が抗体を保有していると判断されることも、今後の感染再拡大リスクが低い理由として挙げている。

シンガポールやイスラエル等ワクチン接種率の高い国で感染が再拡大するケースが見られることを踏まえると、インド政府はワクチン接種が進むなかでも活動制限の緩和に対して慎重な姿勢で臨むとみられ、景気回復ペースは緩やかなものにとどまると見込まれる。



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。